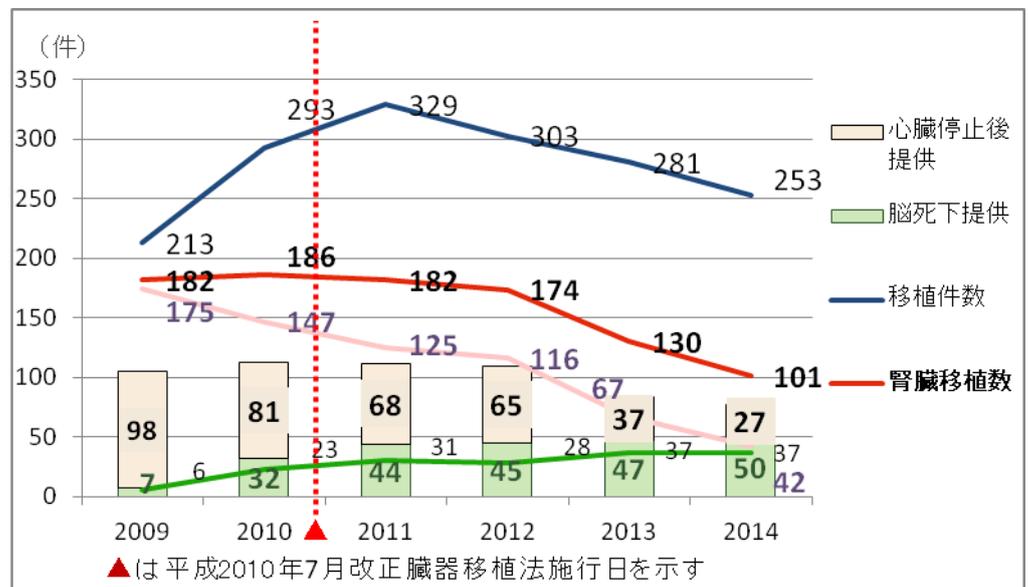


MOTHERとは、Movement Organ Transplant Hyogo Emergency Rescueの頭文字をとったもので、『移植医療の理解促進と、臓器提供を待つ患者の願いを実現するため』に運動をすすめています。

## 臓器提供総数(死後) 2年連続 改正法施行以前下回る

### 地道な啓蒙活動重要に!!

我が国では、1997年に臓器移植に関する法律が施行され、脳死下の臓器提供(以下、提供、心停止は以前から)が行われてきました。その後、12年間、年平均の提供数は約7例と少ないものでした。2010年7月に臓器提供数を増やす改正臓器移植法が施行され、社会の臓器移植(以下、移植)に対する関心が高くなりました。



(過去6年間の臓器移植件数の推移)

その後、早や4年半が過ぎ、脳死下の臓器提供数は年40~50例まで増えました。しかし、心停止後の腎臓の提供数は3年前から急激に減少し、昨年(脳死下+心停止後)の臓器提供総数は77例(上図参照、脳死下50+心停止後27例)で、改正法以前の2009年の105例に対し73%で、一昨年84例に引き続き2年続けて下回っています。また、15歳未満の子どもからの脳死下の提供はわずか7例のみで、移植を希望している心臓の患者の約3分の1の方が年間に亡くなり、腎臓では平均待機年数が14年以上にも達し、その希望は益々遠のき、移植医療は危機的な状況に直面しています。

提供数が増加しない我が国の国民意識について、以前、コロンビア大学の加藤友郎医師は『「臓器不全になったら移植を受けたいですか？自分の子供の場合は？」の問いに対し、→殆どYes、「自分や子供が脳死ドナーになったら提供をしますか？」に対しては、→殆どNo、この矛盾が問題です。移植は受けたいけれど、提供はしたくない、ということでは移植医療は成り立たないのです。移植を推進するには、提供しても良いと言う方からの提供を国内で増加させる必要があります。将来、もし臓器不全になったら移植を受けたいと考える人には、脳死ドナー登録を義務化する、などの対策が必要かもしれません』と述べておられます。

私たちの協議会では、今まで独自に進めてきた学校の授業や市民公開講座を通じ、移植を正確に知ってもらい、移植を身近に感じてもらう活動は不可欠です。その意味で、今後、県内で同じ目的を持つ医師・団体や医療関係者などと連携して、移植の普及・啓発を更に押し進めて行くことが大切なことと存じます。(文責：川瀬喬)

# 活動報告

臓器移植を考える市民公開講座、2014.10.18(土)

『講演会』 開催講師：吉開俊一 Dr. (新小倉病院脳神経科部長)、参加者 35 名、

## 移植医療 “臓器提供の真実” PII.

昨年春に開催した同じ講師による同じテーマで、NPO 法人兵庫県腎友会と協議会の主催、全国腎臓病協議会の共催で、臓器移植普及推進月間の 10 月に姫路市において開催しました。講師は、我が国の移植医療が進まない三要素・三課題として、①『国民への啓発不足』②『メディアの誤誘導』③『医師による提供時オプションを躊躇する問題』を解説され、献腎移植を待つ患者を念頭において話を進められました。



2 部のシンポジウムでは、県内で移植医療の市民公開講座などを通じ移植への関心を高める努力をしておられる市川靖二先生(城陽江尻病院泌尿器科医)をはじめ、今村友紀 Co.や全腎協の役員の方にも加わって頂き、腎臓移植の現状を話して頂きました。また、腎臓提供、なぜ、進まないのか？ 今後、私たちは何をすべきか！など話し合われました。

## 第 5 回チャリティゴルフ大会

2014.9.28(日)武庫の台ゴルフコース

絶好の秋空の下、医師や一般の方たち 41 名と患者の方たち 8 名(移植者、透析患者など)を合わせた 49 名の方が参加して武庫の台ゴルフコースで恒例のチャリティゴルフコンペが行われました。

表彰式では献腎移植歴 31 年の太田ユリ子さん(大阪在住)が『移植によって元気に普通の生活ができる喜びと感謝の思い』を述べ、参加者たちから拍手喝さいを受けられました。守殿貞夫大会実行委員長は『県



内での臓器移植の普及・啓発活動では兵庫県 (表彰式で挨拶される守殿貞夫大会実行委員長) 臓器移植推進協議会と兵庫県腎友会とが力を合わせて推し進めてほしい』旨述べられました。

## 出前授業

○兵庫医科大学、2014.10 月 3 日(金)、1 年 120 名、

「社会福祉学」、テーマ：「GIFT OF LIFE」講師：川瀬。

○神戸学院大学、2014.10 月 29 日(水)、2 年 43 名、「医療ソーシャルワーカー論」、

テーマ：「臓器移植の現状と課題」講師：同上、

○園田学園女子大学、2014.11 月 6 日(木)、3 年 72 名、「成人保健」、

テーマ：「臓器移植の現状と課題」講師：同上、

○神戸夙川学院大学、2014.11 月 19 日(水)、2~4 年 43 名、「生命倫理学」

テーマ：「臓器移植の現状と課題」講師：同上、

○関西学院大学、2014.12月8日(月)、3～4年ゼミ生 30名、

テーマ：「人工透析を経験して」講師：高橋、

兵庫医科大学1年のS.Yさん(女性)の受講後の感想文を以下にご紹介します。

『今日の授業を講師よりお聞きして、先ず驚いたことは欧米と日本でドナーに対する評価が異なるということです。欧米ではドナーの行為を『慈愛の行為』とするのに対し、日本では(自発的行為として)消極的、また、欧米では移植者とドナー家族の交流が行われているのに対し、日本ではほとんど行われていない。欧米ではドナーを初め、臓器移植に関する知識を社会に広めようとする努力と試みが盛んなのに対し、我が国ではマスコミにもほとんど取り上げられず、世間では無関心であるという違いです。最近では日本でもドナーについて関心が高まっていると思っていたのですが、これも、欧米と比較するとまだまだなのだなと感じました。また、講師から脳死と心停止との相違点を説明して下さい、理解が深まりました。私は臓器提供をしないと考えています。理由は何となく怖いイメージがあるからです。

しかし、将来、医師になることで、ドナー不足の問題の深刻さを実感することになるでしょう。ドナーによる臓器提供が誰かの命を救えるのなら、是非、推奨すべきではないかと考えます。なので、今日の授業により、私も『臓器を提供するという意思表示を積極的に行える様になりたい』と心の変化がありました。

シンポジウム『知っとう?こんな病気』に参加、初のニコニコ動画生放送!

～神戸の患者団体の活動から～2014.10.25

主催：NPO オールアバウトサイエンスジャパン(代表理事：西川伸一先生、AASJ)、

神戸市の医療産業都市の一般公開日にあわせ、長年、難病やがん・臓器移植に取り組んできた患者団体や研究者・支援者が一堂に会し、市民の皆さんに難病などのことをより知って頂くことに加え、夫々の実情

について一緒に議論するためのシンポジウムを先端医療センターの TRI(神戸市臨床情報センター)のホールで開催しました。内容は各患者団体よりそれぞれの活動や課題の発表、会場や初の「ニコニコ動画」視聴者からの感想・質問と紹介、代表理事の西川伸一先生によるコメント、フリーディスカッションなどを行いました。



(母校・関学大で出前授業 講師の高橋直義さん)



**トピックス!!** 当協議会の米田准三相談役は、協議会において長年、県内の臓器移

植の普及・啓発に尽力されたことで、2014年10月19日、富山市で開催された臓器移植推進国民大会において厚生労働省から本年度の感謝状贈呈の榮譽を受けられました。これは、私たちの協議会にとって大変名誉なことであり、喜ばしいことです。

# 私の移植体験

「多発性嚢胞腎」を患われた渡辺正博さんの腎臓移植体験記  
(寄稿) その2. 渡辺正博氏(NPO 法人日本移植者協議会理事)

移植の日の来るのを毎日待ち望んでいましたが、困った事に、移植の適応基準となるCr値が8.0にも上がらず、又、この頃私の入院予定のT女子医大病院では医療ミス問題などでごたごたがあり、移植の日を延期せざるを得ませんでした。結局、年が明けた2月下旬いよいよ入院の日になりました。

私の場合、移植手術以外にも腎臓や脾臓の摘出の為、長時間の手術になりました。特に腫大した嚢胞腎の摘出は腹膜などの周囲組織への癒着が激しく、横隔膜や膵臓の損傷をまねかないよう慎重に剥離する為、14時間の手術になりました。

移植後の血液検査も毎日続きましたが、検査の結果もすべて問題ナシで急性拒絶反応や肺炎、感染症の心配もありませんでした。すべては姉と私のHLA型(白血球の血液型)の一致のお陰だと思っています。

最後に移植を経験して思う事ですが、現在の移植医療は過去に比較して、免疫抑制剤や拒絶治療の進歩で生着率も着実に向上していることです。腎臓移植件数は年間700例を超えています。(生体腎移植550例、献腎移植150例)

現在では親兄弟や親族であれば血液が違っていても移植ができます。又夫婦間でも移植が充分可能な時代です。主治医のT先生は過去に20例以上の多発性嚢胞腎患者の移植例を経験され、全て成功しているそうです。

もちろん、移植された腎臓は永久に元気で働いてくれる訳ではありませんが、人生の一時期を毎日元気で過ごす事ができる事は何より素晴らしいことだと思います。私自身、姉から貰ったこの“命の贈りもの”は本当に第二の人生をプレゼントされたのだと今でも思っています。この頂いた贈りものを大切に、これからも健康管理に努め、充実した毎日を過ごしていきたいと思えます。

また自分の移植体験がこれから移植を考えられている皆様のご参考になればと思い、患者から見た末期腎不全の治療の選択肢である移植医療について、今後も勉強していきたいと思えます。

ご寄付を頂戴しました。誠に有難うございました。臓器移植の普及啓発推進のために大切にに使わせて頂きます。

○兵庫腎疾患対策協会様、 ○旭化成ファーマ株式会社様、  
○兵庫県・神戸市社会福祉協議会様、 ○イレブン・ミューズ様、 (敬称略)

協議会の活動を進めるために会費の納入にご協力を!

当協議会の活動へのご支援を有難うございます。会費の納入をお願いします。会員の種別は以下の通りです。

正会員：2,000円、賛助個人会員：1,000円、賛助団体会員：10,000円(一口)  
郵便振替用紙に、必要記載事項(氏名、住所、電話番号、会員の種別)をご記入して下さい。  
口座名：兵庫県臓器移植推進協議会 口座番号：00950-9-243407

